

月下の円舞

基本

「叶世座公演」を徒神サイネとトコヨとして演じます。
以下のルールが変更されます。

徒神サイネ、トコヨとして原初札を含めて眼前構築を行います。お互い使用しないカードは通常札1枚、切札2枚のみとなります。原初札は通常のものを用いてください（英雄戦は動作保証外です）。

トコヨを演じるプレイヤーが先手となります。

初期ターンは4です。

残りターンによる評価はありません。攻略の可否のみを見ます。

山札の振付カードは8枚であり、順番は固定です。右上の数が若いものが先に登場するよう予め並べてください。

プレイヤーは振付カードの内容を事前には見られませんが、以下の3枚のみ公開されています。

《n回》と書かれた振付はその回数だけ条件を満たさなくてはなりません。満たした回数はターンをまたがり記録されます。桜花結晶を置くなどして管理してください。

出典：『八葉鏡の徒桜』エピソード5

北限への入口、御冬の里のはずれ。ある洞窟で繰り広げられた、何よりも艶やかで、何よりも美しい、ひとつの円舞。

これはいずれ、私たちの劇としても語り継がれるだろう。

—叶世座座長、仲小路艶麿



基本セット以外に必要なもの

『祭札二〇一九』のルール、『第参拡張』のカード、そして物語セット目録で同じく配布されている物語12、物語13のカードが必要です。

月夜の決闘 03
えんぱけんらん

「4回」攻撃が対応される。

+2

定められた回数を踊り踊るが如く激しい舞台へ。

月下の鼓動 06
げつか こどう

「2回」終了フェイズに現在の間合が0である。

+2

生まれの間隙の中、音り添うように踊いた。

双翼の桜飛沫 02
さうよく さくらしづみ

両者が同じターンにライフへのダメージを受ける。

+1

互いの刃が双方の身から、結晶を桜飛沫のごとく散らす。

桜煙際いて 05
さくらけむりたまた

両者のライフの合計が8以下である。

+1

薄い始めの桜色の霞ですらな、ここでは必然たる演出。

彼女たちの果て 08
かのじょ けつたのり

両者の切れが全て使用済みで、オーラが0で、ライフが1で、手札が0枚で、フレイアの合計が6以下である。

成功!

いずれでこの舞は、いつが閉幕を迎えなくてはならないはずだった。

美の体現 01
び たいげん

「花鳥風月常世郷」を使用する。

+3

決闘の始まりを告げたのは、ただ一つの呼称であった。

道を踏み結め 04
みちをふみゆめ

「2回」終了フェイズにサイネは八相、トコヨは境地である。

+2

永久にも感じられる静の後、動が物語を進めていく。

蒼の炎 07
あお ほんのほ

「絶華絶景」に対応で使用する。

+0

奏でられる音色は色はや絶叫を超えて音色に非ず。